

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3272200597		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと工房		
事業所名	グループホーム 和水屋		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町中村森四、1542番1 (電話) 08512-4-0091		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月18日	評価確定日	平成21年10月7日

## 【情報提供票より】(21年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年9月16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤2人, 非常勤10人, 常勤換算5, 9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建て	1~2階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	5名	要介護2	0名
要介護3	3名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 77, 7歳	最低 76歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	隠岐の島町国民健康保険中村診療所
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ゆったり笑顔で生活してもらおうと利用者に寄り添うことを心がけ、地域や人との関係を大事にしたケアを行っているホームである。散歩時、お茶をご馳走になったり花をもらったりすることも多く、地域の人に温かく見守られている。看取りをきっかけに職員の意識に変化がみられ、一段とチームワークが良くなった。「できない」ではなく、「やってみないとわからない」と意欲的にケアに取り組んでいる。運営方針が明確で、夜勤者を2名配置するなど利用者の自由で安全な生活を支援をしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「便りの発行」「運営推進会議の開催回数」は積極的に取り込まれ改善されている。「災害対策」は連絡体制が整備され、避難訓練の実施が計画されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票に職員全員で書き込み話し合いを行いながらまとめた。職員は、取組みを通して日頃のケアを振り返り、多くの気づきがあったと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の生活の様子やホームの取組みを報告し、出席者と意見交換をしている。看取り事例の報告を通し、グループホームへの認識が深まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に意見を聞いたり、運営推進会議への出席人数を増やし意見の引き出しに努めている。家族からの意見は職員全員で話し合いケアや運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や清掃活動、行事を通しての交流など、ごく自然な形でつきあい、散歩や外出時に気軽に声を掛け合う関係ができている。ボランティアの来訪や野菜や魚などの差し入れも多く、地域と積極的に連携を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者の設立への思いを大事にしながら職員全員で見直しを行い、地域密着型サービスとしてのわかりやすい理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議などで理念を確認しあい日々の実践に活かしている。職員採用時には理念を説明している。	○	権利擁護の観点から、契約書等に利用者の権利について明文化していただきたい。運営規定等にホームの実態にそぐわない表現があるので見直しが望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花や野菜をもらったりお茶をご馳走になったり、自治会や清掃活動、ボランティア、行事を通しての交流など、積極的に連携を図っている。中学生の体験学習の受け入れも行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員全員で自己評価票に書き込み話し合いながらまとめた。職員は、日頃のケアを見直す機会となり多くの気づきがあったと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活や運営状況を報告し質問を受けたり意見交換をしている。看取りの事例や取り組みを伝え、グループホームへの認識が深まっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症ケアの実態について情報提供をしたり、担当者と共に地域の講演会の立案をしたり、相談などを行い連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や電話で生活ぶりや健康状態を伝えている。毎月便りを発行し、一人ひとりの利用者のエピソードを添えて送っている。	○	さらに積極的に記録物を開示し、情報の共有に努められることを望む。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に意見を聞いたり、家族の運営推進会議への出席人数を増やすなど意見の引き出しに努めている。要望については話し合い改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時には利用者に必ず紹介し、夜勤者は日勤業務で利用者との関係を築いてから夜勤をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行い、資格取得のための支援も積極的に行っている。外部研修にもできるだけ参加するように配慮しているが、人数制限のある研修もあり参加できないことがある。	○	継続して研修を行うために研修計画を作成されることを望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との会議や研修会に出席し交流を図っている。行政主導で地域密着型事業所の会合が発足した。管理者は同業者との相互訪問を考えている。	○	同業者同士の相互訪問実現に向けて、積極的に行政へ働きかけていただきたい。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭訪問や見学など馴染みの関係を築いてから開始するようにしている。馴染まれるまで寄り添うことを心がけ、家族の協力も得ている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に行動する中で家族のような関係が築かれ、互いに協力しあって生活している。料理や味付けを教わることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情、生活ぶりから思いを把握している。困難な場合は、情報を共有しながら統一したケアを試み利用者の行動を見て判断している。飲酒を希望する人にはとろみをつけて対応した。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議で利用者の様子を話し合い、家族や利用者本人から聞きだした情報をもとに計画を作成している。家族との目標が違う時には納得いくまで話し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月計画の見直しを行い、必要時には随時見直している。記録の工夫をして気付きを書き込み、見直しに反映させている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や外泊、外出など、希望に柔軟に対応している。医療連携体制加算をとり健康管理や看取りの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の納得したかかりつけ医による受診支援をしている。利用者は医師を信頼し安心した支援を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明し意向を優先している。利用者、家族の強い希望があり、医師の協力を得て看取りを行った事例がある。関係者が十分に話し合い方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員同士が互いに注意しあい、利用者に対し適切な言葉かけや対応をしているかを振り返っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、散歩など、職員の都合ではなく利用者の希望やペースを尊重した対応を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に合わせ一緒に食事を作ったり片づけをしている。おかわりを進めたり会話をしながら楽しい食事場面の雰囲気をつくっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間帯に支援している。夜勤の職員を2名配置していて、夜間に入浴する人が多い。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、水やり、食事の準備など、得意なことを活かせる場面がある。「送り人」のビデオ鑑賞、民謡や花札など、楽しみごとの支援に力を入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、郵便局に行くなど、日常的に利用者の希望に沿って戸外に出かけている。墓参り、自宅訪問、外食なども積極的に支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない自由な生活の支援をしている。外出される時は付き添ったり、タイミングを見て声をかけ趣味などで気分転換を促している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の人には日頃から協力を依頼し了解を得ている。夜間警備員を配置し、火気の点検などを行っている。	○	救急救命法の研修など、定期的に訓練を実施していただきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し、食べにくい時にはゼリーやあっさりしたメニューなど工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり家庭的な食器棚が置かれ落ち着いた雰囲気がある。利用者の希望や状態にあわせ、座ったり横になれる場所がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒や好みの物を持ってきてもらうように家族に話し、入居時から安心して過ごせるように利用者にあわせた居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。